

# 「心のふれあい」について

## ——第9回府中市政世論調査の概要——

府中市企画調整部広報課

主査 野呂末蔵

府中市では、毎年1回、広聴の一環として市政世論調査を実施し、市政に対する市民の意見、要望、市民意識等を把握し、市政運営の参考資料としている。今年度も、8月に新情報センターのご助力を願い、第9回の調査を行った。

今回の調査は、「心のふれあい」が基本テーマであり、「コミュニティ」「社会教育」「社会体育」の3点について調査するなかで、地域社会における市民相互の人間関係、連帯感、共同(協働)意識といったものを把握することに主眼をおいた。

以下、「心のふれあい度」を中心にあらましをご紹介します。

### 1. 調査のねらい

府中市は、現在、「緑と心のふれあう人間都市づくり」という基本方針の下に市政を運営している。これは、人間の住む都市は、それにふさわしい内容を備え、そこに住む市民が心身ともに安らぎを得ることのできる、人間尊重の、人間優先の都市でなければならないという発想によるものである。

今回の調査は、この「緑と心のふれあう人間都市づくり」を進めて行くうえでの基礎資料を得ることが目的であった。

今日、一般的に「物」の時代から「心」の時代に移りつつあるということが言われている。低成長下、それだけの経済的な余裕のないこともある

うが、少なくとも、人々が、物質的な豊かさが第1ではなく、それ以上に精神的な豊かさも大切であることに気付きはじめているということであろう。そして、それに伴い、個々の人間どうしの、いわゆる「心のふれあい」が求められつつある傾向も認められる。しかし、一部には、なお、できるかぎり他とのかかわりあいを避け、自らの領域に固執し、極端に「個」を大切にしたいという傾向のあることも指摘されている。ここには、行政に対してはもちろん、地域社会にも無関心な、まして、他の人々と協力して何かをやらうなどは考えない人間の姿が浮んでくる。

そこで、はたして府中市民においてはどうか、また「心」の領域において、市政の果たすべき役割は何であるのか……これらの点を把握してみたかったわけである。

### 2. 調査の方法

府中市在住の満20才以上の男女個人1,000人を住民基本台帳から、層化二段無作為抽出法により抽出、調査員による個別面接聴取法を採用した。調査期間は、昭和52年8月6日から8月15日までで、回収率は83.2%であった。

### 3. 調査結果の概要

はじめに述べたように、本調査は「コミュニティ」「社会教育」「社会体育」の3点について調

査したものである。これら3点は、「心のふれあい」という基本テーマにおいては関連しているが、それぞれの施策に結びつけて分析する意図を持って設問した独立の調査項目としての意味も持っている。したがって、それぞれの項目についての調査結果も別途まとめているが、それとは別に、基本テーマにそって総合分析を試みたのが、「心のふれあい度」である。

その方法としては、全設問の中から、地域に対する愛着度、市政への信頼度、地域社会への参加度、貢献度などの要素を持った設問19項目を選び、これに対する回答に点数を配分、個々の対象者の合計得点によって「心のふれあい度」をみることにした。

19項目と、回答に対する点数配分は次のとおりである。

#### ※ 「心のふれあい度」に関する設問及び回答に対する点数配分

##### □ 愛着度、信頼度に関して

(問)	(答)	(点数)	(回答率)
・住み心地……………	住みよい……………	1点……………	82.8%
・定着意向……………	今後も住みたい……………	1点……………	80.5%
・愛郷心……………	愛着を感じている……………	1点……………	68.8%
・市の行政……………	役立っている……………	2点……………	35.2%
	……………いくらか役立っている……………	1点……………	41.5%

##### □ 参加度に関して

・市政に対する関心……………	非常に関心がある……………	2点……………	11.1%
	……………やや関心がある……………	1点……………	47.1%
・となり近所とのつきあい……………	親しくつきあっている……………	1点……………	32.8%
・近所づきあいの必要性……………	必要である……………	1点……………	92.3%
・自由時間の過ごし方……………	趣味などのサークル活動をしている……………	2点……………	14.9%
・サークル活動への参加意向……………	活動したい……………	1点……………	43.3%
・市主催の学級講座への参加……………	参加した……………	2点……………	15.7%
	……………今後したい……………	1点……………	32.1%
・スポーツ等のグループ活動……………	積極的に参加する……………	2点……………	11.1%
	……………既成グループに参加……………	1点……………	11.9%

##### □ 貢献度に関して

・地域社会での活動……………	活動している……………	1点……………	18.1%
・青少年健全育成のため……………	ボランティア活動をしている……………	2点……………	4%
	……………今後してもよい……………	1点……………	29.0%
・日頃しているスポーツの勧誘……………	人にも勧めたい……………	1点……………	27.4%

上記の点数配分に従って点数を算出すると最も好ましい回答を続けた者の得点は20点となる。

そこで、この20点を満点とし、以下0点までの5段階にわけ、およその判断基準として「心のふ

れあい度」をみてみたところ、次のようになった。

・Aグループ(非常に積極的なグループ)

合計得点が16点以上となったグループで、全体の1.7%と極端に少ない。自分の住む土地に十分な愛着を持ち、人とのふれあいを好み、進んで地域社会にとけこみ、貢献しているとみられるグループである。

・Bグループ(やや積極的なグループ)

合計得点が12点~15点となったグループで全体の13.2%あった。Aグループほどでないにしても、地域に愛着を持ち、人とのふれあいも大切に、機会があれば進んで地域のために役立ちたいと思っているとみられるグループである。

・Cグループ(中間的グループ)

合計得点が9点~11点のグループで、全体

の25.7%あった。特に、人とのふれあいということにはとらわれないが、地域のために必要な場合は、よき協力者ともなるとみられるグループである。

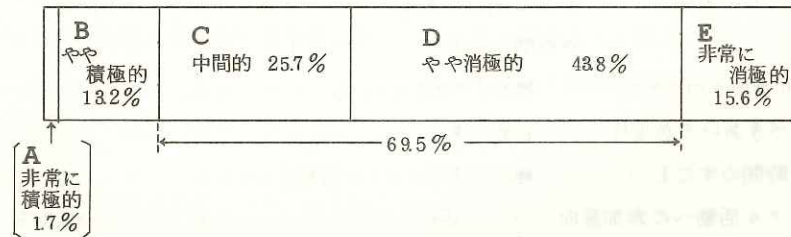
・Dグループ(やや消極的なグループ)

合計得点が5点~8点のグループで、全体の43.8%と最も多い。自らの生活が第1であり、人とのふれあいの必要性は認めているものの、何か直接に自らの利害に係るきっかけがなければ動こうとしないとみられるグループである。

・Eグループ(非常に消極的なグループ)

合計得点が4点以下のグループで、全体の15.6%ある。人とのふれあい、かかわり合いを好まず、干渉したり、されたりすることを最も嫌っており、「心のふれあい」に欠けるとみられるグループである。

(心のふれあい度)



グループわけの基準の適否はこの際別として考えていただきたいが、これによって、府中市民の「心のふれあい」の姿がおぼろげながら表われてくる。すなわち、今回調査したかぎりでは、「やや消極的」なDグループが最も多く、次いで「中間的」なCグループ、「非常に消極的」なEグループ、「やや積極的」なBグループの順となり、「非常に積極的」なAグループは極端に少ないわけである。Cグループ、Dグループを合わせると、全体のおよそ70%となるが、このあたりが、府中市民の平均的な「心のふれあい」ぶりであると

言えよう。このことは、我々の当初の予測とは、若干異なったものとなった。希望的観測も交えてではあるが、少なくとも、Cグループを中心にBグループあたりが多いとみていたからである。なぜなら、平素の「地域文化センター」の利用状況、市主催の各種学級講座等への殺到、市民まつり、地域納涼まつりに対する市民の熱心さを見ていたからである。やはり、都会型の住民が多くなってきたと言うのであろうか……。

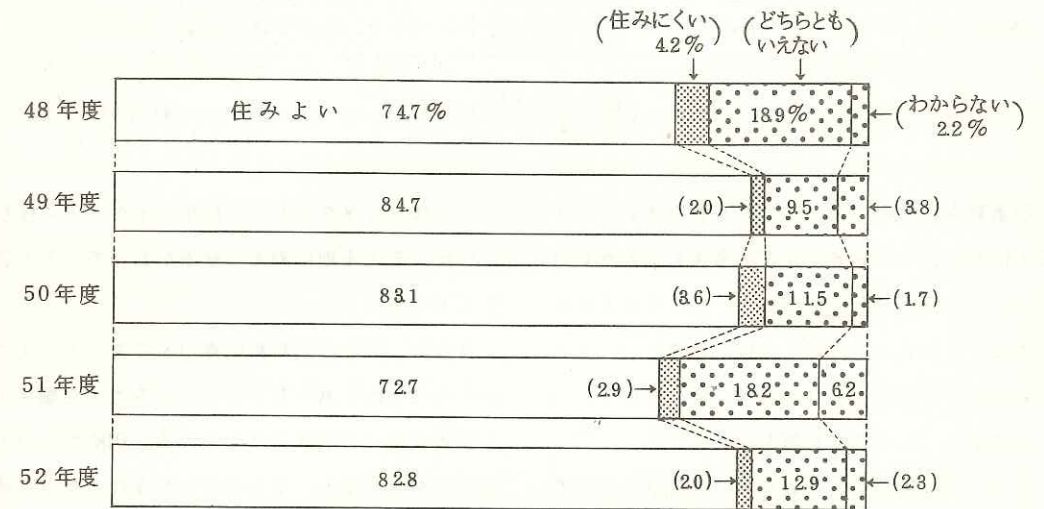
次に、各項目ごとに内容を見てみると次のとおりである。

(1) 地域への愛着度、市政への信頼度

問. (住み心地)

あなたは府中市を住みよいと感じていますか。

○住みよい	82.8%
○住みにくい	2.0%
○どちらともいえない	12.9%
○わからない	2.3%
計)	100.0%



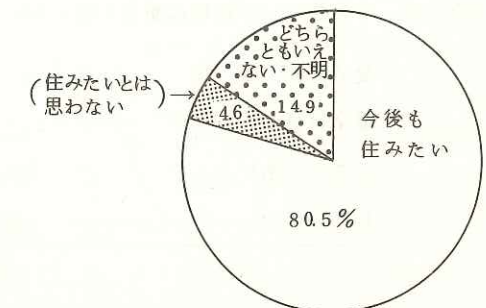
住み心地については、個々人の特性、時々々の社会環境等により差異があるのが常である。住みよいと答えてはいても、何か問題を抱えていることもあり、住みにくいと答えていても、

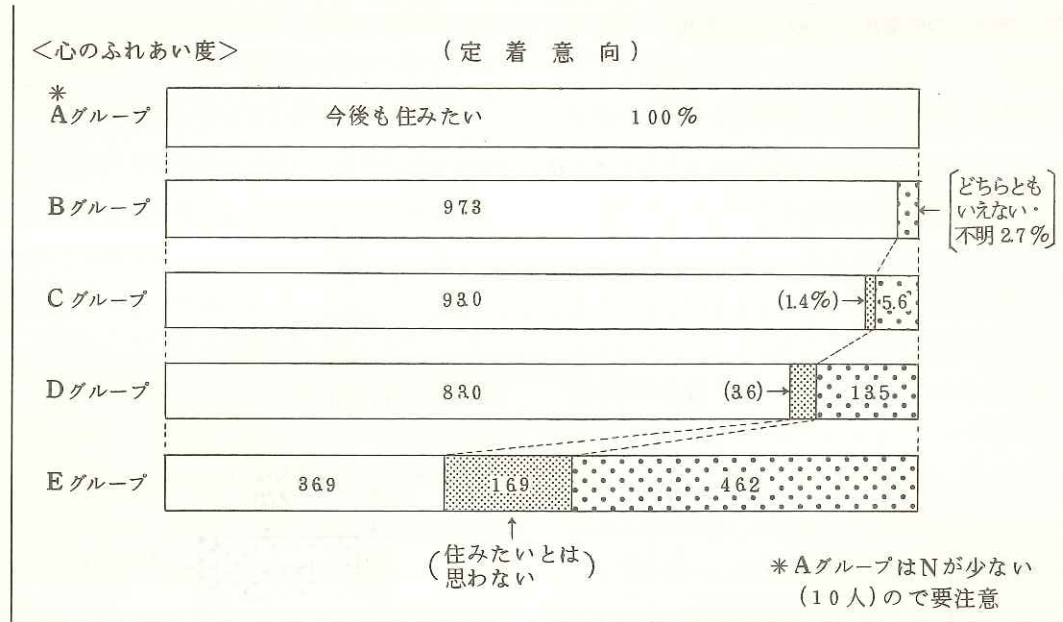
不自由なく暮している例もあろう。

ただ、概して府中市は「住みよい」という評価が多いと言えるようである。

問. (定着意向)

あなたは今後も府中市に住みたいと思いますか。





定着意向については、やはり「住みよい」とする人に高く、その88.7%が「今後も住みたい」としているが、一方「住みにくい」とする人なかでは、その35.3%が「今後も住みたい」としているにすぎない。「住み心地」は、やはり、「定着意向」に大きな影響を与えている。

また、居住年数も「定着意向」と関連しており、居住年数が長くなるほど「今後も住みたい」とする人が多くなって行く。ちなみに「今後も住みたい」とする人は、居住年数11年以上の人で90%、6～10年で79.9%、3～5年で62.3%、

1～2年で68.2%という結果が出ている。住むにつれ、その土地に対する愛着がわいてくると言うことであろうか……。

さらに、「心のふれあい度」別でみると、上のグラフのように、A～Eグループがみごとな順序で「定着意向」の高低を示している。円滑な心のふれあいを自ら望み、またそうした条件の整った場にある人は、長くそこに住みたいという意向を持つことがわかる。都市施設が整い、何不自由ない都市環境という条件以上に、何か精神的なものが求められていることが理解できる。

問. (愛郷心)

あなたは、今お住まいの地域に愛着を感じていますか。

○愛着を感じている	68.8%
○愛着は感じていない	10.5
○どちらともいえない	18.6
○わからない	2.2
計)	100.0

(居住年数)	(愛着を感じている) %	(愛着は感じていない) %	(どちらともいえない) %	(わからない) %
1～2年	40.2	15.9	89.3	4.7
3～5年	51.4	18.8	26.8	2.9
6～10年	69.0	11.5	17.2	2.3
11年以上	81.8	5.8	11.2	1.2
不明	100.0	-	-	-

愛郷心(土地に対する愛着)を、他に故郷を持つ人に期待することには無理があるかもしれない。しかし、長く住めば住むほど、その土地のよさがわかり、自らの生活の基盤としての愛着がわいてくることは、上表の示すとおりである。それにしても、もともとその土地に、何かの魅力がなければ愛着がわいてはこないであろう。

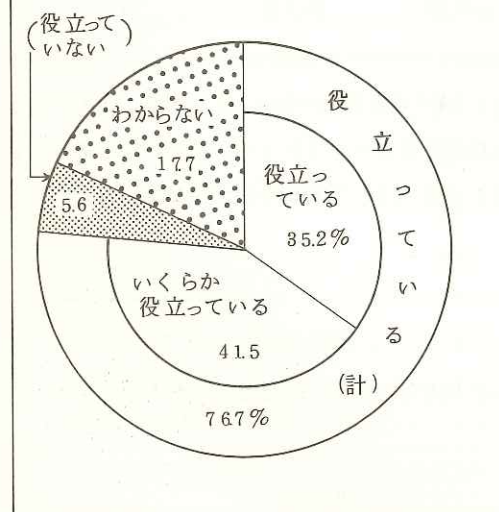
ているとした者が76.7%あり、市政は、ある程度の満足感を市民に与え、信頼されてもいと受け取ってよいだろう。

いずれにせよ、地域への愛着度、市政への信頼度はかなり高く、府中市は、住むには適した土地であると多くの市民が感じているものと思われる。条件は整っているわけである。

(2) 地域社会への参加度

問. (市の行政)

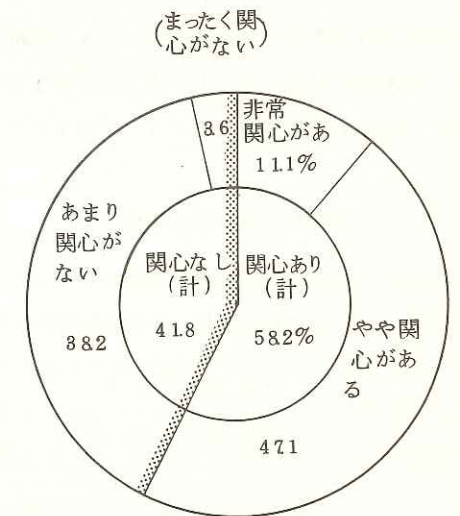
あなたは、市がいままで行政面でやってきたことが、ご自分の生活に役立っていると思いますか。



自らの生活に市政が役立っているかどうかの観点から、市政に対する満足度あるいは信頼度的なものを探ったわけであるが、いくらかでも役立っ

問. (市政への関心)

あなたは市政についてどの程度関心をおもちですか。この(回答票)なかから、あなたのお気持ちに近いことをあげてください。



市政に対する関心は、時々社会情勢によって微妙に変化する。何か問題があり、その解決に市政の力を必要とし、市政を身近に感ぜざるを得ない状況の下での関心度は高くなる。府中市の場合

も、したがって年ごとで多少の差があり、一定してはいない。しかし、概して高い関心を示す市民が多く、市民は比較的に市政を身近に感じ、期待も少なくないということが言える。

問. (近所づきあいの程度)

あなたは、となり近所の人と、どの程度のつきあいをしていますか。

○親しくつきあっている	32.8%
○世間話をする程度	24.8
○あいさつをする程度	35.7
○まったくつきあいがいい	6.4
○その他	0.4
計)	100.0

(心のふれあい度)	(親しくつき合っている)	(世間話をする程度)	(あいさつをする程度)	(まったくつきあいがいい)	(その他)
	%	%	%	%	%
* Aグループ	78.6	7.1	14.3	—	—
Bグループ	60.0	19.1	17.3	2.7	0.9
Cグループ	43.0	27.6	26.6	2.8	—
Dグループ	26.9	29.1	39.0	4.7	0.3
Eグループ	4.6	14.6	59.2	20.8	0.8

近所づきあいについては、あまり親密なつきあいはないようである。プライバシー云々の問題もあり、比較的、サラリとしたつき合いが好まれている。心のふれあい度別でAグループの人でさえ

も、(全くつきあいがいいとする人が1人もいなかったことはさすがであるが)親しくつきあっているとするとする人は、78.6%にすぎなかった。

問. (近所づきあいの必要性)

あなたは、近所づきあいについてどのようにお考えですか。必要なことだと思いますか、その必要はないと思いますか。

○必要である	92.3%
○必要はない	4.2
○わからない	3.5
計)	100.0

(心のふれあい度)	(必要である)	(必要はない)	(わからない)
	%	%	%
* Aグループ	100.0%	—	—
Bグループ	98.2	1.8	—
Cグループ	98.6	1.4	—
Dグループ	96.2	1.9	1.9
Eグループ	65.4	17.7	16.9

近所づきあいについて、その実際は別として、必要性を問うたわけであるが、実に全体の92.3%の人が「必要である」としており、心のふれあい度Eグループの人でさえ、その65.4%が近所づきあいを必要と答えている。

つきあい方の程度の差はあっても、社会生活を送るうえで、他人とのかかわりあいは避けられないし、またそれが必要であると、多くが認めているわけである。

問. (自由時間の過ごし方)

あなたは現在、自分の自由時間をおもにどのように過ごしていらっしゃいますか。

(M.A)

○趣味などのサークル活動	14.9%
○習いごとやけいごごと	10.2
○家で読書など	25.2
○家でテレビ等をみて何となく過ごす	40.7
○スポーツ	13.1
○遊びに出かける	17.1
○麻雀、パチンコ、競輪、競馬など	5.5
○その他	7.6
○自由時間はない	8.3
計)	142.6

この設問は、「社会教育」に関する調査項目の1つで、余暇利用の実態を把握するためのものであった。国でも、今年同様の調査を行っているが、

「家でテレビ等をみて何となく過ごす」いわゆるゴロ寝族が、40.7%と最も多いところなど、全国的な傾向が、府中市にも反映している。ただ、ここでは、余暇利用における地域社会への参加意向ということで、「趣味などのサークル活動」について問題とした。

問. (サークル活動への参加意向)

〔現にサークル活動をしていない〕  
697人：全体の83.8%の人に

あなたは、時間があれば、各種サークルやグループ活動に参加してみたいと思いませんか。

	〔サークル活動をしていない〕 697人=100%	〔全体〕 832人 =100%
	%	%
○参加してみたい	51.7	43.3
○参加したくない	47.9	40.1
○その他	0.4	0.3
計)	100.0	83.8

サークル活動への参加は、1つの社会参加としての意味を持っている。余暇時間という条件をつけたうえで参加意向を問うたのであるが、「参加してみたい」「参加したくない」が相半ばした結果となった。個人的な興味のある方にも関係し、一概には言えないが、自ら参加しようという人はそれほど多くないようである。

問. (市主催の学級、講座等への参加)

あなたは今までに市が主催する各種学級や講座に参加したことがありますか。

○はい	15.7%
○いいえ	84.3%
計)	100.0%

SQ. (講座等への参加意向)

あなたは、市が主催する各種学級や講座などに参加したいと思いますか。

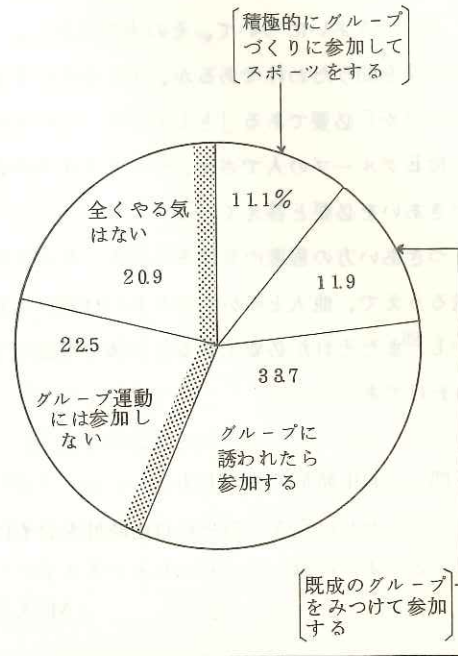
	「いいえ」 701人 =100%	全体 832人 =100%
	%	%
○参加したいと思う	38.1	(32.1)
○参加したいとは思わない	61.9	(52.2)
計)	100.0	(84.3)

前問と同じく、「社会教育」に関する設問であるが、ここでは、「参加」に対するきっかけづくりとして市が主催している各種の学級や講座への参加度や、参加意向を調査した。もともと定員のある学級、講座であり、個人個人の興味をそそるものかどうかの内容の問題、あるいは、こうした学級、講座が開かれているという情報の提供—広報の問題にもかかわりがあり、それほど高い数字を期待できないとは予測していた。しかし、我々の実感としては、広報に開催の旨を掲載し、申し込み受付を開始すると、きまって定員以上の申し込みが殺到するという実情から、少なくとも参加意向は高くなるとみていた。ところが、調査の結果は、参加したことのある者が少ないのは当然としても、「参加したい」と思っている者が32.1%とたいへん少なかった。

「きっかけ」づくりのいかに大変なことであるかが思われる。

問. (スポーツグループへの参加意向)

最近、スポーツや運動のクラブ(グループ)をつくって、自主的に活動する方がふえています。あなたの場合、こうしたスポーツのグループ活動について、どのようにお考えになりますか。



参加意向を、スポーツの面から問うたが、自ら積極的に参加する意向のある者は非常に少ない。むしろ、誘われなければグループに参加しない者が多いのである。

「地域社会への参加」については、多くの人がある必要性を認めている。しかし、実際に参加するかどうかになると、消極的な立場をとる人が多いのが特長である。

人とかかわりあいの必要性は認め、十分な関心は持っても、自ら行動は起そうとしない。ある種の「ためらい」があるのであろうか……。

(3) 地域社会への貢献度に関して

問. (地域社会での活動)

あなたは、地域の人達と一緒に、なにか活動をしたりしていますか。

○している	18.1%
○していない	81.9%
○計)	100.0%

(心のふれあい度) (している) (していない)

*Aグループ	100.0%	—
Bグループ	55.5	44.5
Cグループ	24.8	75.2
Dグループ	6.0	94.0
Eグループ	0.8	99.2

「コミュニティ」の項の中で、地域社会での自治会活動、PTA活動、子どもや老人のための奉仕活動などといった活動を、他と協力してやっているかどうかをみたものである。地域の連帯感、共同意識というものを醸成するという意味で、必要な活動であるが、実際に、活動している者は少なく、その意味から貢献度は低いと言わざるを得ない。

問. (青少年育成のためのボランティア活動)

「青少年の健全育成に関心を持つ」  
548人：全体の65.9%の人に

あなたは、青少年の健全育成をはかるために、ボランティア活動をなさっていますか。

	「青少年の健全育成に関心を持つ」 548人=100%	全体 832人 =100%
	%	%
○ボランティア活動をしている	5.8	(3.8)
○別に何もしていない	94.2	(62.0)
計)	100.0	(65.9)

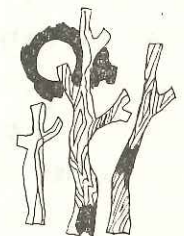
(SQへ)

SQ. (ボランティア活動への参加意向)

あなたのお気持ちとして地域の健全育成のために、ボランティア活動をしてよよいと思いますか。

	「別に何もしていない」 516人=100%	全体 832人 =100%
	%	%
○活動をしてもよい	46.7	(29.0)
○別に活動をしたとは思わない	53.3	(33.1)
計)	100.0	(62.0)

青少年の健全育成という限られた範囲であるが、そのために実際に無償で働いているのか、あるいはこれからそうしてもよいと考えているかどうかを聞いた。実際に活動をしている人は、全体のわずか3.8%にすぎず、「青少年健全育成」と限定はしたが、あまりにも少ない数となった。特に青少年の健全育成に関心を持つと答えた人に限ってみても、その5.8%しかなく、関心は持っても、無償でそのために働いている人はたいへん少ないわけである。また、今後の意向についても、あまり積極的ではない回答が返ってきている。地域社会のために、(他人のために)、無償でもよいから働くという気持ちを持った人は、めずらしい存在なのであろうか……。



問。(スポーツへの勧誘)

〔日頃スポーツをしている  
355人：全体の42.7%の人に〕

あなたが日頃なさっているスポーツや運動を他の人にもすすめたいと思いますか。

	日頃スポーツ をしている 355人=100% %	全 体 882人 =100% %
○よいことだから人にもすすめたい……	64.2	(27.4)
○健康づくりは自分のためだから、人にはあまりすすめようとは思わない……	29.8	(12.5)
○わからない	6.5	(2.8)
計)	100.0	(42.7)

「社会体育」の項で、スポーツについて、日頃スポーツをしている人に対し、これを他にもすすめるかどうか、を聞いたものであるが、市が推進しようとするスポーツの、グループづくりの核となり得る層がどの程度いるのかを知りたかったわけである。比較的「好き」「嫌い」がはっきりとするスポーツに限ってのことではあるが、現にスポーツを好み、スポーツをしている人も、その3割は「自分のために」と考えており、他の人々にすすめるまでには至っていない。ただ、64.2% (全体の27.4%)の人が、他にもすすめたいとしているのは、心強い。

以上、「貢献度」については、地域社会のために進んで働くという気持を持った人が意外に少ないということができよう。

厳しい現実の社会のなかでは、何の見返りもなく、他人のために働くという気持を持つこと自体、たいへんな事であるのかもしれない。しかし、地域の連帯の輪は、こうした気持の持主によって支

えられてきたはずである。今後、より多くの市民にこうした気持を持ってもらうことが課題となつてこよう。

#### 4. ま と め

以上からまとめると、平均的な府中市民は「心のふれあい」を必要と思い、それを大切にしながらはいるが、自ら積極的に動こうとはしないという結果がでてくる。

- (1) 地域社会に対しては、自分もその一員であることを認識しているが、それは、自分以外のだれかが支えているものであり、自ら進んでその役割を果すことはないと考えている。
- (2) 自らの生活が第1であり、そこにいるかぎり、だれにも邪魔されたくはないし、だれの邪魔もしたくはないと考えている。
- (3) 人とかかわりあい=つきあいについては、必要とは考えているが、必要最低限でよいし、それ以上に親密さを増すことにはためらいを感じている。
- (4) したがって、地域的な問題が発生しても、自らの生活に直接関係がなければ黙って見過す。仮にそうした問題が発生したとしても、よほどのことがないかぎり自分が前面に出て他に呼びかけることはしない。
- (5) 他人と一緒に何かをするのは、何となくわずらわしい。そうしたいとは思ってもなかなか実行できないでいる。
- (6) 他人のために、何の見返りも期待せずに働くのは、あまり好まない。ただし、その活動の内容、程度にもよる。  
このように並べてくると、府中市民は、いかにも、醒めた、冷めたい人間のように思えてくる。しかし、
- (7) 現在住んでいるところは、環境もよく住み

よい。長い間住み続けるにもよいところだと感じている。

- (8) 自分の生活の基盤でもあり、生活を築きあげてきたところだから、愛着も感じている。
  - (9) 市政についてはあまり不満はない、ほぼ満足できるところだ。
  - (10) こうした環境に住む以上、やはり皆とうまくつきあって行きたいし、興味のもてることなら、それを通じて仲間づくりもしてみたい。
- と「心のふれあい」について認識し、現在の土地に住み続ける以上、それを大切にしたいとも考えているのである。
- 府中市民の多くは、いわゆる高度成長の時代に、新しく転入して来た人々である。地域社会は、そうした、他所に故郷を持つ様々な人々で成り立っている。したがって、まだ十分な「心のふれあい」のためのきっかけをつかめないでいる実情もあろう。その意味から、今回の調査の結果を冷静に受けとめたい。
- 「緑と心のふれあう人間都市づくり」はその緒についたばかりである。今後、市政は、あらゆる施策を通じて、その実現に努めて行かなければな

施策を通じて、その実現に努めて行かなければならない。

とりわけ、市政の任務としては、「心のふれあい」のための場の提供と、きっかけづくりがあると考えられる。場の提供については、すでに、市内に7館、コミュニティ施設として建設した地域文化センターがあり、市民の評価も高い。ただ、その運営において、なお、市民の自主性に負うところが、大であると云える。

また、きっかけづくりについては、社会教育における学級、講座、社会体育におけるスポーツ教室等があるが、今回の調査にもみられるように、なお、関心はうすい。

しかし、幸い、最近になって、青年層を中心とした奉仕的な活動が芽生えはじめ、また自治会活動も全市的な規模で活発化しつつあるという傾向も認められる。

いずれにせよ、あまり積極的ではない市民を、いかに活動の場へ導びくかが今後の課題である。

そうした意味で、今回の調査は、我々に貴重な資料を与えてくれた。

